<table>
<tr><td colspan="3">農　林　委　員　会　委　員　協　議　会　記　録</td></tr>
<tr><td>１　会議の日時</td><td colspan="2">令和５年１１月２０日
開　会　　午後　０時５８分
閉　会　　午後　２時２０分</td></tr>
<tr><td>２　会議の場所</td><td colspan="2">第　４　委　員　会　室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３　出　席　者</td><td>委員</td><td>委員長　長　屋　光　征　副委員長　所　竜　也
玉　田　和　浩　渡　辺　嘉　山　伊　藤　秀　光
水　野　正　敏　酒　向　薫</td></tr>
<tr><td>執行部</td><td>別　紙　配　席　図　の　と　お　り</td></tr>
<tr><td>４　事務局職員</td><td colspan="2">課長補佐　中　川　雅　洋　主任　脇　若　知　香　子</td></tr>
</table>

5　会議に付した案件	
件　　名	審 査 の 結 果
1　Ｇ－クレジット制度の運用開始について 2　新規就農者の現状について 3　コクチバスの駆除対策の進捗状況について	

６ 議 事 録（要点筆記）

○長屋光征委員長

それでは、ただいまから農林委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るために開催したものである。

議題１の、Ｇ－クレジット制度の運用開始について、執行部の説明を求める。

（執行部挨拶：久松林政部長）

（執行部説明：伊藤森林活用推進課森林吸収源対策室長）

○長屋光征委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

（発言する者なし）

○長屋光征委員長

11月１日から制度が始まったが、対象となる森林の募集状況はどうか。

○伊藤森林活用推進課森林吸収源対策室長

現在は、募集にあたって、クレジットを創出する側となる森林組合や市町村等を対象にした制度説明会を開催し、制度の周知を実施している。今後は個別に説明に回って働きかけることを予定している。

○長屋光征委員長

認証量はどのくらいを見込んでいるか。

○伊藤森林活用推進課森林吸収源対策室長

３、４年後には、１万トンCO_2程度を目指している。

○伊藤秀光委員

間伐の方法によって、クレジットの量が変わるのか。

○伊藤森林活用推進課森林吸収源対策室長

間伐の方法によって量が変わるものではない。

○伊藤秀光委員

クレジットは目に見えないため、聞いた人がイメージできるような説明をしていくとよい。例えば、全国豊かな海づくり大会において、カーボン・オフセットの取組を実施したが、このような具体的な例やエピソードがあるとわかりやすい。

○酒向薫委員

近年、異常気象による環境の変化が見られるが、このことに対して、この制度はどのような関係があるのか。

○伊藤森林活用推進課森林吸収源対策室長

二酸化炭素の排出削減に取り組む事業者はクレジットを活用し、見かけ上カーボンニュートラルにすることができるため、地球温暖化対策の一助になると考えている。また、個人でも購入が可能であり、カーボン・オフセットの取組を広く普及することで、県民の行動変容にもつなげていけたらよいと考えている。

○酒向薫委員

県民の方にもできることがあるということを含めて、広くＰＲしていただくとよい。

○長屋光征委員長

Ｊ－クレジットを購入した県内企業からは、メリットがわかりにくいという声を聞く。これは、制度自体がわかりにくいということでもある。例えば、イベントのオフセットに活用する場合、そのイベントでの二酸化炭素排出量はどのように判断するのか。

○伊藤森林活用推進課森林吸収源対策室長

二酸化炭素排出量の計算については、環境生活部と連絡を密にし、取り組んでいきたい。

○長屋光征委員長

令和６年度から本格的に売買がスタートするなら、二酸化炭素排出量の計算方法も含めて、個人で応援したい方にもわかりやすい説明ができるように部局横断的に取り組んでいただきたい。これは要望である。

○伊藤秀光委員

清水エスパルスの試合で排出する二酸化炭素量をブラジルの小水力発電事業者のクレジットでオフセットしたという事例もある。オフセットするなら地産地消、県の森林を大事にして、その森林の二酸化炭素吸収量を活用するのがよいが、こういった具体例があるとわかりやすい。

○酒向薫委員

相対取引はどのように行うのか。入札を行うのか。

○伊藤森林活用推進課森林吸収源対策室長

県がクレジットを認証した段階で、Ｇ－クレジット制度のホームページに掲載する。買いたい方はクレジットの創出者に連絡していただき、価格交渉をしていただくこととなる。また、入札は考えていない。

○長屋光征委員長

制度自体は概ね理解できるものであるが、県民の方によりわかりやすい説明ができるよう、環境生活部と連携して進めていただきたい。

質疑も尽きたようであるため、これをもって質疑を終了する。

続いて議題２の、新規就農者の現状について、執行部の説明を求める。

（執行部説明：後藤農業経営課担い手対策室長）

○長屋光征委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○伊藤秀光委員

新規就農後、離農した人はどのくらいいるのか。

○後藤農業経営課担い手対策室長

過去10年間における新規就農者約900名のうち、37名が離農している。

○伊藤秀光委員

離農率は、低くて良いと思う。一人一人に寄り添った支援が大切であり、精神的な支え、仲間の支え等により就農に対する意欲をなくさないように支援を行ってほしい。

○酒向薫委員

新規就農者にとって、栽培技術を習得することも難しいが、どのように販売していくかも難しい。これは収入につながることでもあるため重要である。ＪＡによる共選販売では手数料が負担となるが、ネット販売などでは手数料がないため農家の収入が多くなる。新規就農者の販売に関してどのように進めているのか。

○後藤農業経営課担い手対策室長

新規就農者には、関係機関で組織するサポートチームによる技術・経営両面の伴走支援を行い、早期経営安定化を推進しているが、まず５年間はしっかり技術を習得し、単収（単位当たりの収穫量）を確保するよう支援している。

○酒向薫委員

資料中の冬春トマトといちごの生産者数と栽培面積の推移の図を踏まえれば、生産者数と栽培面積の減少を研修所の修了者である新規就農者がカバーしていると考えてよいか。

○後藤農業経営課担い手対策室長
　そのとおりである。
○長屋光征委員長
　資材が高騰しているが、新規就農者に対し、どのような支援を行っているか。
○後藤農業経営課担い手対策室長
　施設等の整備では、４分の３という高い補助率で最大750万円を補助する事業や、農業用ハウスの仕様見直しによる初期投資の抑制、また、肥料高騰・燃油高騰に対する支援を行っている。
○長屋光征委員長
　新規就農者以外の農業者への支援はどのようになっているのか。
○後藤農業経営課担い手対策室長
　従来の農業者に対しても、規模拡大や直売、６次産業化の取組に対する支援と経営等の助言を行う専門家派遣などを行っている。
○長屋光征委員長
　高齢化による離農者の資機材などを、新規就農者に紹介することはしているのか。
○後藤農業経営課担い手対策室長
　例えば、飛騨地域の夏秋トマトでは中古資材のリスト化を行い、中古資材の活用を推進している。他の産地でも同様に、中古資材等をリスト化して、中古資材等を利用できる仕組みを考えていきたい。
○長屋光征委員長
　トマトやいちごに限らず、水稲なども含め、中古資材のリスト化を行い、若い農業者に引き継ぐことができるよう県のバックアップをお願いしたい。
○玉田和浩委員
　岐阜市の雄総地域のぶどう農家から、後継者がいないとの相談がある。
○後藤農業経営課担い手対策室長
　地域と情報共有して、後継者を育成できる仕組みを考えていきたい。
○長屋光征委員長
　質疑も尽きたようであるため、これをもって質疑を終了する。
　続いて議題３の、コクチバスの駆除対策の進捗状況について、執行部の説明を求める。
（執行部説明：金武里川振興課長）
○長屋光征委員長
　ただいまの説明に対して、質疑はないか。
○伊藤秀光委員
　長良川だけでなく揖斐川や木曽川にもコクチバスの生息が広がっている状況の中、令和９年度までに完全駆除に取り組むことは可能なのか。
○金武里川振興課長
　困難な道のりではあるが、完全駆除をあきらめることはできない。来年度には、揖斐川や木曽川でも電気ショッカーボート等による駆除を予定しており、駆除の結果により、生息状況が明らかになってくるため、目標年度を修正することはありうる。
○伊藤秀光委員
　完全駆除に向けて頑張ってほしい。しかしながら、令和元年度に揖斐川本川中流部で確認された時になぜ今回のような対応ができなかったのか。
○金武里川振興課長
　令和元年度の時点で対応をしていればこのような事態にならなかったのではというご指摘はもっともであるため、少なくとも長良川では同じ轍を踏まないよう、生息が広がっていない現時点で徹底的に駆

除を進めていきたい。

○酒向薫委員

コクチバスの買取り実績はどの程度で、主な持ち込み地域はどこになるか。また、密放流等は検挙されると罰金刑だが、検挙実績や情報提供はあるのか。

○金武里川振興課長

コクチバスの買取り実績は、10月末時点で約１トン、2,400尾であり、全て岩屋ダムからの持ち込みである。現時点で密放流等の検挙実績の報告はないが、情報は寄せられており、漁協等の関係機関と共有している。

○伊藤秀光委員

関係機関との連携を含めた組織体制を組むことで効率よく駆除が進むと思うが、その体制はどのように考えているか。

○金武里川振興課長

県を挙げた推進体制が必要と考えており、どのような体制で進めていくのか検討していく。

○伊藤秀光委員

組織体制をしっかりして、１年でも早く完全駆除できるようにしてほしい。既に電気ショッカーボートの契約を締結したとのことだが、動かさないと意味がない。県漁連に編成予定の駆除作業専門チームが重要と考える。人が動くには予算が必要だが、予算確保の見込みは。

○金武里川振興課長

市場価格も踏まえ適正な積算のもと、予算確保に努めていく。

○伊藤秀光委員

私も漁協の組合員なので、一緒に連携してやっていきたい。

○玉田和浩委員

来年２月には１艇目の電気ショッカーボートが入ってくる予定のため、すぐ動かせるよう県漁連で既に体制を組んでいる。来年度の予算がかなり必要なので、委員の皆さんの応援が必要である。コクチバスが広がってしまったら終わりなので、初期の対応が大事である。

○所竜也副委員長

根尾川流域ではコクチバス被害はないのか。

○桑田里川振興課水産振興室長

環境ＤＮＡ分析の結果、根尾川は「陽性」となっており、生息しているという情報も寄せられている。しかし、県としては現認をしていない状況のため、個体数は少なく漁業被害には至っていないと考えている。

○長屋光征委員長

委員会視察で他県の取組を伺ったが、「完全駆除は難しい」という話だった。結果を出すために、委員会としても応援したい。必要なものは言ってほしい。

要望だが、アクア・トトぎふで行っているコクチバスの展示のような啓発パネルを作成し県内小学校等に掲示して教育をすることも必要である。教育委員会と協力してコクチバスの害などを子供たちに知ってもらう取組を検討してもらいたい。

○長屋光征委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって質疑を終了する。

続いてその他として、何か意見等はないか。また、執行部はいかがか。

（発言する者なし）

○長屋光征委員長

先日の農政部職員の不祥事については大変遺憾であり、今後このようなことがないよう気を付けてい

ただきたい。また、農林委員会の所管部局職員に不祥事があった場合は、各委員に報告をしていただきたい。

意見もないようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

農林委員会 委員協議会 配席図

令和5年11月20日

第4委員会室

出入口

後藤 農政課 農業研究企画監	長谷川 農政課 技術総括監	岡山 農地整備課 農地防災対策室長	桑田 里川振興課 水産振興室長
富田 農政課 スマート農業推進室長	中村 農政課 笠松競馬支援室長	加藤 農地整備課長	金武 里川振興課長
岩本 農村振興課長兼 鳥獣害対策室長	後藤 家畜防疫対策課長	長屋 畜産振興課長	大橋 農産園芸課長
井戸 農業経営課長	河尻 農産物流通課長	野村 検査監督課長	古田 農政課長
高井 農政部次長	田口（博康） 農政部次長	田口（博史） 農政部次長	足立 農政部長

傍聴席・記者席

青谷 農産園芸課 花き・農業環境対策監	細野 環境生活政策課 生物多様性企画監		
後藤 農業経営課 担い手対策室長	桑畑 畜産振興課 飛騨牛銘柄推進室長	小川 家畜防疫対策課 野生いのしし対策室長	内木 森林保全課 山地災害対策監
吉峯 県産材流通課 木造建築推進室長	石田 森林経営課 林業経営改革室長	近藤 林政課 管理調整監	大島 林政課 技術総括監
長谷川 県産材流通課長	古沢 森林経営課長	垂見 森林保全課長	伊藤 森林活用推進課 森林吸収源対策室長
久松 林政部長	長谷川 林政部次長	小川 林政課長	植野 森林活用推進課長

傍聴席・記者席

出入口

出入口

出入口

酒向 委員

伊藤(秀) 委員

玉田 委員

長屋 委員長

所 副委員長

渡辺 委員

水野(正) 委員

議会事務局